TRANSPARENT CLEANSING COSMETIC

Publication number: JP2004035420 (A)

Publication date: 2004-02-05

Inventor(s): NOGUCHI YASUNORI; TERADA REIKO
Applicant(s): SAKAMOTO YAKUHIN KOGYO CO LTD

Classification:

- international: A61K8/00; A61K8/37; A61K8/32; A61Q1/00; A61Q1/02; A61Q1/14; A61K8/00; A61K8/30; A61K8/32; A61Q1/00; A61Q1/02; A61Q1/14; ((PC1-7): A61K7/02

- European:

Application number: JP20020191272 20020628 Priority number(s): JP20020191272 20020628

Abstract of JP 2004035420 (A)

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an only transparent cleanising cosmetic comprising a polyphyrour fally acid ester; SOLVIDO: This transparent cleanising cosmetic comprises he following polyphyrour fally acid ester; obtained by several properties (A) to (C) as ingredients. (A) 3.0-15.0 wit. 5 of a polyphycnot brampa (20 polymerazion) with an 3-16C branched fally sectifying a polyphycnot having 3-10 acreased segree of polymerazion with an 3-16C branched fally prepared by esterliying a polyphycrot having 3-12 average degree of polymerazion with an 3-16 acreased by esterliying a polyphycrot having 3-12 average degree of polymerazion with an 3-16 acreased by esterliying a polyphycrot having 3-12 average degree of polymerazion with an 3-16 acreased by esterliying a polyphycrot having 3-12 average degree of polymerazion with an 3-16 acreased by esterliying a polyphycrot acreased by esterliying a poly

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19) 日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号 特開2004-35420

(P2004-35420A) (43) 公開日 平成16年2月5日(2004.2.5)

審査請求 有 請求項の数 1 OL (全 9 頁)

(51) Int. Cl. 7 FΙ テーマコード (参考) A61K 7/02 A 6 1 K 7/02 4C083 Á

(21) 出願番号 特願2002-191272 (P2002-191272) (22) 出願日

平成14年6月28日 (2002.6.28) 版本業品工業株式会社 大阪府大阪市中央区添路町1丁目2番6号

> (74) 代理人 300088360 田村 克之

(71) 出願人 390028897

(72) 発明者 野口 安則 大阪府泉大津市臨海町1丁目20番 阪本

薬品工業株式会社研究所内 (72) 発明者 寺田 玲子

大阪府泉大津市臨海町1丁目20番 阪本 薬品工業株式会社研究所内

Fターム(参考) 4C083 AA122 AB051 AC022 AC122 AC182 AC352 AC421 AC422 AC442 BB11

CC11 DD01

(54) 【発明の名称】透明クレンジング化粧料

(57)【要約】 (修正有)

【課題】ポリグリセリン脂肪酸エステルを含むオイル状透明クレンジング化粧料の提供。 クレンジング効果及び低温域から高温域の両方において温度安定性が良好であり、特に使 用後水により容易に乳化、微細エマルションを形成することにより、水洗性が極めて良好

である官能特性に優れるという特徴を持つ。 【解決手段】次の成分(A)~(C):(A)平均重合度が2~10のポリグリセリンと

、炭素数8~18の分岐脂肪酸とをエステル化して得られ、且つHLB値が14未満であ るポリグリセリン分岐脂肪酸エステル3、0~15、0重量%(B)平均重合度が8~1

2のポリグリセリンと、炭素数8~18の直鎖脂肪酸上とをエステル化して得られ、且つ HLB値が14以上であるボリグリセリン直鎖脂肪酸エステル2.0~14.0重量%(C)水0.01~2.0重量%及び油分を含有し、且つ系内のHLB値を10.5~14

. 5とする透明クレンジング化粧料。

【選択図】なし

【特許請求の範囲】

【請求項1】

次の成分(A)~(C):

(A) 水酸基値から算出した平均重合度が2~10のポリグリセリンと、主として炭素数 8~18の分岐脂肪酸より選ばれる1種又は2種以上とをエステル化して得られ、且つH LB値が14未満であるポリグリセリン分岐脂肪酸エステル3.0~15.0重量%

(B) 水酸基価から算出した平均重合度が8~12のボリグリセリンと、主として炭素数 8~18の直鎖脂肪能 り選ばれる 1種又は2種以上とをエステル化して得られ、且つ日 LB値が14以上であるボリグリセリン直鎖脂肪酸エステル2・0~14・0重量% (C) 水の、01~2・0重量%

及び油分を含有し、且つ系内のHLB値を $10.5\sim14.5$ とする適明クレンジング化 粧料。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】

本毎明は、液状油をベースとするオイル状の新規だ適明クレンジング化酸料に関する。更 に詳しくは、非イオン界画活性剤であるポリオキシアルキレン誘導体を含有セギ、ポリグ レセンと脂肪酸エステルを用いた処方派において、外根が延明でクレンジング効果及び低 温域から高温域の両方において温度安定性が良好であり、特に使用後水により容易に乳化、 歳額ロマルションを形成することにより、水洗性が極めて良好である首能特性に使れた 増明 ロレンジング 伊修料に関するものである。

[0002]

【従来の技術】

従来より、メイクアップ化粧料の除去を目的としてクレンジング化粧料が用いられている 、クレンジング化粧料は主に界面活性剤や油分によるメイクアップ化粧料の溶解作用を利 用したもので、創系的にはローション状、乳液状、クリーム状、オイル状のものが一般的 である。その中でも、液状油をベースとするオイル状のクレンジング化粧料であるクレン ジングオイルは、口紅やファンデーション等のメイクアップ化粧料との馴染みが良好であ り、クレンジング効果が高い商品として認知されている。また、最近のメイクアップ化粧 料は化粧持ちの点が向上しており、ローション状、乳液状、クリーム状のクレンジング化 粧料では、化粧持ちの良いメイクアップ化粧料の除去効果が満足に得られないことがあっ た。このことからクレンジング効果の高い、オイル状のクレンジング化粧料が使用される ケースが増えてきている。しかしながら、このものはクレンジング効果が良好であるが、 水洗した使用後の肌に油性感が生じ、使用後のさっぱり感に欠け、その後、高級脂肪酸ナ トリウム塩又はカリウム塩、N-アシルグルタミン酸を主成分とする洗顔料にて洗顔する 必要があった。これら従来の技術として、種々のものが提案されている。例えば特公平6 -99275には、非イオン界面活性剤と液体油とを必須成分として得る非水クレンジン グ料や、特許公報第2977568号には、特定の非イオン界面活性剤、水、液体油を含 有するクレンジング化粧料が提案されている。これらのクレンジング化粧料も、メイクア ップ化粧料との相溶性が良好でクレンジング効果は高いが、水洗した使用後の肌に油性感 が生じ、使用後のさっぱり感に欠ける点で使用性において不十分であった。また、最近良 く使用される化粧持ちの良いメイクアップ化粧料に対して使用した場合は、水洗後の油性 感が更に強くなり、肌がべとつく等の問題があった。また特公平6-99275における 温度安定性は5~40℃で2週間のレベル、特許公報第2977568号における温度安 定性は5~45℃で2週間のレベルであり、実際の市場での物流を考えた場合、両者共に やや不十分なレベルであった。

[00003]

また、上記記様のクレンジング化粧料に配合される非イオン界面活性猟はH1.B値の制約 があるものの種々使用できることが記載されている。例えば、ソルビタン脂肪酸エステル 、ボリグリセリン脂肪酸エステル、ボリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ボリ オキシエチレンソルビット階間酸エステル、ポリオキシエチレングリセリン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンアリコール脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンアルチェーテル、ボリオキシエチレンとマシ油・硬化トマシ油等が解すられている。しかし、実施所で使用されている事件オン界面活性剤は、石油系ポリオキシエチレン誘導体の非イオン界面活性剤だけであり、当時の技術としては、それ以外のア波由来の新語が推測されて、現内開発されるほよとは日雄であった。しかし、最かをでは、より女生性を含める目的で、皮膚刺激が変される様子の石油系ポリオキシエチレン誘導体を使用せず、天然由来の安全性に優れた界面活性剤を使用した更有系が望まれるケースが増えてきている。例えば、医薬品、化粧品、及び会料品の界面活性剤として有用である脂肪酸とポリグリセリンとエステル化することによって得られるボリグリシリン間肪酸エステルが挙げられる。再接のボリグリセリンに一般的にはグリセリンと関抗酸セステルがダブリセリンと出税物はステステルが挙げるれる。現まが、ボリグリセリン脂肪酸エステルがダブリセリンと出税物酸エステルはグリセリンと脂肪酸エステルはグリセリンと出税物酸エステルはグリセリンと出税物酸エステルはグリセリンを出税物を

[0004]

一方、オイル状のクレンジング化粧料と類似した使用方法を有するものに、ラメラ流晶を利用した油性のクレンジングジェルがある。このクレンジングジェルもメイクアップ化粧料に関係ませた後、水で洗い流す方法で使用され、オイル状のクレンジングが企料に比べると、メイクアップ化粧料の使用方法に類似しているが、オイル状のクレンジング化粧料に比べると、メイクアップ化粧料の使用 用後の水冷性について、評細を研究があされている。具体的には、使用後の水冷性を左右する因子に、水洗過程はより形成するエマルションの乳化粒子径に広存することが報告されている(FRA GRANCE J J J URNAL 1993ー4)、詳しくは、水洗過程でサブミクロンオーダー(0.5μm前後)の微細エマルションを形成させれば、水洗性が良好で、使用後の肌に治性感が含く、使用後にさっぱり寒のある使用性の良いものが得られることが報告されている。未受用核は、上記得タで(9275及び料き入料等)977568号記載、実施例中のクレンジング化粧料を木に希釈し、形成した乳化粒子径を測定した結果、平均の乳化粒子径が2~4μmであり、微細エマルションが形成していないことを確認した。

[0005]

一方、非イオン界面活性剤を用いて非水乳化法や や粗孔(法により、容易に酸塩エマルシ コンを得る技術が知られている。これらの乳化方法は、非イオン界面活性剤、多値アルコ ールスは多値アルコール水溶液、油を均一溶解した相を水で希釈し乳化する手順であり、 水で卷釈し乳化する前の非イオン界面活性剤、多値アルコール又は多値アルコール水溶液 、油を均一溶解した相が、オイル状のクレンジング化粧料と類似している為、利用が考え られるが、この相は温度安定性が極めて趣く、高温地及び低温域において2相分離もしく は、低温域で白濁化するため、クレンジング化粧料としての利用は困難である。また、商 品価値の点から、オイル状のクレンジング化粧料の外観は週明が消費者に好まれ、現状市 販されている格どは、外部が透明である。

[0006]

【発明が解決しようとする課題】

そこで本条明格は、上記の事情に鑑み、液体油をベースとした新規な適明クレンジング化 粧料に関し、非イオン界面活性剤であるポリオキンアルとお誘導体を含有せず、ポリグ リセリン脂肪酸エステルを用いた処方系において、外観が適明でクレンジング効果及び低 温暖から高温域の両方において温度安定性が良好であり、特に使用後水により容易に乳化 、厳細エマルションを形成することにより、木洗性が極めて良好である首能特性に優力た 売期ロンシジングが振り着いません。

[0007]

【問題を解決するための手段】

ボリグリセリン分岐脂肪酸エステルとボリグリセリン直鎖脂肪酸エステルとを特定の量で 組合せ、そこへ水、油分を含有させた透明クレンジング化粧料が、上記課題を解決し得る ことを見出だし、本発明を完成するに至った。

[8000]

即ち、本発明は、次の成分(A)~(C):

(A) 水酸基価から算出した平均重合度が2~10のボリグリセリンと、主として娯楽数 8~18の分岐間治能より選ばれる1種収は2種以上とをエステル化して得られ、且つ日 LB値が14未満であるボリグリセリン今岐間計能エステル3.0~15.0重量% (B) 水酸基価から算出した平均重合度が8~12のボリグリセリンと、主として従来数 8~18の直鎖部治能より選ばれる1種欠は2種以上とをエステル化して得られ、且つ日 LB値が14以上であるボリグリセリン直鎖脂肪能エステル2.0~14.0重量% (C)水0.01~2.0重量%

及び油分から成る透明クレンジング化粧料に関するものである。

[0009]

以下、本発明を詳細に説明する。本発明で使用するボリグリセリン分岐脂肪酸エステルと は、水酸基価から算出した平均重合度が2~10のボリグリセリンと、主として炭素数8 ~18の分岐脂肪酸から選ばれる1種又は2種以上とをエステル化して得られ、且つHL B値が14未満であるボリグリセリン分岐脂肪酸エステルである。このようなボリグリセ リン分岐脂肪酸エステルとしては、モノ2-エチルヘキサン酸ジグリセリル。モノ2-エ チルヘキサン酸テトラグリセリル、ジ2-エチルヘキサン酸ヘキサグリセリル、トリ2-エチルヘキサン酸デカグリセリル、モノイソノナン酸ジグリセリル、モノイソノナン酸テ トラグリセリル、ジイソノナン酸ヘキサグリセリル、ジイソノナン酸デカグリセリル、モ ノイソトリデカン酸ジグリセリル。モノイソトリデカン酸テトラグリセリル。モノイソト リデカン酸ヘキサグリセリル、ジイソトリデカン酸デカグリセリル、モノイソパルミチン 酸ジグリセリル、モノイソバルミチン酸テトラグリセリル、モノイソバルミチン酸ヘキサ グリセリル、ジイソパルミチン酸デカグリセリル、モノイソステアリン酸ジグリセリル、 ジイソステアリン酸ジグリセリル、テトライソステアリン酸ジグリセリル。モノイソステ アリン酸テトラグリセリル、モノイソステアリン酸ヘキサグリセリル、モノイソステアリ ン酸デカグリセリル、ジイソステアリン酸デカグリセリル、モノ(イソパルミチン・イソ ステアリン) 酸ジグリセリル等が挙げられ、これらの1種又は2種以上を使用する。これ らの中で特にHLB値が10~12とHLB値が4~6のボリグリセリン分岐脂肪酸エス テルとを併用し、そのHLB値が8~12となるように組合せ使用することが好ましい。 また、HLB値14未満のボリグリセリン分岐脂肪酸エステルとHLB値14以上のボリ グリセリン分岐脂肪酸エステルとをHLB値14未満となる割合で併用することも出来る

[0010]

本発明の透明クレンジング化粧料には、上記のボリグリセリン分岐脂肪酸エステルを、3 .0~15.0 加重係、形ましくは5.0~13.0 重量を使用する。3 重量%未満では 水と接した時に容易に引化し、線和エマルションを形成することが出来ないなか。 使後の水液性が悪く目的の性能のものを得ることが出来ない。また、低温域及び高温域において2 保外館するや温度安定性が悪くなる。速に15.0 重量%を超えて使用した透明クレンジング化粧料は、メークとの馴染みが遅く、また低温域で自溺したり、高温域では2 相分離する等温度安定性が悪くなる。

[0011]

ン酸ドデカグリセリル、モノミリスチン酸オクタグリセリル、モノミリスチン酸デカグリ セリル、モノミリスチン酸ドデカグリセリル、モノミリストレイン酸オクタグリセリル、 モノミリストレイン酸デカグリセリル、モノミリストレイン酸ドデカグリセリル、モノバ ルミチン酸オクタグリセリル、モノパルミチン酸デカグリセリル、モノパルミチン酸ドデ カグリセリル、モノバルミトレイン酸オクタグリセリル、モノバルミトレイン酸デカグリ セリル、モノパルミトレイン酸ドデカグリセリル、モノステアリン酸オクタグリセリル、 モノステアリン酸デカグリセリル、モノステアリン酸ドデカグリセリル、モノオレイン酸 オクタグリセリル、モノオレイン酸デカグリセリル、モノオレイン酸ドデカグリセリル、 モノリノール酸オクタグリセリル、モノリノール酸デカグリセリル、モノリノール酸ドデ カグリセリル、モノ(カプリル・カプリン)酸オクタグリセリル、モノ(カプリル・カプ リン) 酸デカグリセリル、モノ (カプリル・カプリン) 酸ドデカグリセリル、ジ (カプリ ル・カプリン)酸ドデカグリセリル等が挙げられ、これらの1種又は2種以上を使用する 。これらの中で特にHLB値が14~16のポリグリセリン直鎖脂肪酸エステルが好まし い。また、HLB値14以上のポリグリセリン直鎖脂肪酸エステルとHLB値14未満の ポリグリセリン直鎖脂肪酸エステルとをHLB値14以上となる割合で併用することも出 来る。

[0012]

本発明の透明のレンジング化粧料には、上記のポリグリセリン重越階階級エステルを、2 . 0~14、0重量% 好ましくは4、0~12、0重量%使用する。2、0重量%未満 では、水と接した時に容易に乳化し、微細エマルションを形成することが出来ない為、使 用後の水液性が悪く目的の性能のものを得ることが出来ない。また、低温減及び高温域に おいて2和分離する等温度安定性が悪くなる。速に14、0重型%を超えて使用した透明 クレンジング化粧料は、外電が良軽が透明性を量することが困難となる。またメークとの 頻降みが遅くなったり、更には、低温域では白濁したり、高温域では2相分能する等温度 安定性が悪くなったり、更には、低温域では白濁したり、高温域では2相分能する等温度 安定性が悪くなったり、更には、低温域では白濁したり、高温域では2相分能する等温度

[0013]

また、本売門の透明クレンジング化粧料において、系内のHLB値を10.5-14.5 とする必要がある。系内のHLB値を10.5未満で頭見した透明クレンジング化粧料は、水と接した時で客局に乳化し、候相エマルションを形成することが出来ない。使用後の水洗性が悪く目的の性能のものを得ることが出来ない。また、HLB値が14.5を超減に入場合には、外観が良好ご透明性を呈することが困難となる。またメークとの関係みが遅くなったり、更には、低温域では白濁したり、高温域では2相分離する等温度安定性が運くなったり、更には、低温域では白濁したり、高温域では2相分離する等温度安定性が運くなる。

[0014]

また、本発明の透明クレンジング化粧料には水を0.01~2.0重量%、好ましくは0.1~1.5重量%使用する。0.01重量%未満で調製したクレンジング化粧料は、低温域及び高温域において2相分離し、温度安定性が悪くなる。また、2.0重量%を超えて調製した場合は、高温域で2相分離し温度安定性が悪くなる。

[0015]

本発明の売明クレンジング化粧料に配合する油かとしては、特に限定はなく、例えば、流動パラフィン、スクワラン等の炭化水素類、ミリスチン酸イクチルドデシル、イソノナン 酸イソノニル、ミリスチン酸イグTロじル等のエステル類、トリ2ーエチルへキサン酸グ リセリル、トリ(カプリル・カプリン酸)グリセリル等のトリグリセライド類、オリブ油 、ホホバ油、月見卓油、**シ油等の量物油頭、ジスチルポリシロキサン、メチルフェニル ボリシロキサン、環状メチルボリシロキサン等のシリコーン油類、オクチルドデカノール 等の高級アルコール等が響けられ、これらの一種又は二種以上を使用する。

[0016]

本発明の透明クレンジング化粧料には、上記の油分を66. 0~94. 99重量%の範囲 で、好ましくは70. 0~90. 0重量%使用する。66. 0重量%未満及び94. 99 重量%を超えて調製した場合、本発明の範囲外となり、目的の性能を有する透明クレンジ

```
ング化粧料を得ることが出来ない。
```

[0017]

本発明の透明クレンジング化粧料には、発明の効果を根なわない範囲で通常の透明クレンジング化粧料に使用される疲分、例えば、グリセリン、ジグリセリン、ボリオキシアロビレンジグリセリルエーテル、1、3ープチレングリコール、アロビレングリコール、ジアロビレングリコール、等の多値アルコール類、マルチトール、マンニトール等の槽アルコール、植物由出液肌、各種ビケミン、ア3ノ酸、生薬、消炎剤、細胞腺活剤、色素、防腐剤、香料等を豊宜配合することができる。

[0018]

【実施例】

以下に実施例を挙げて本発明を具体的に説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。

[0019]

実施例1~12 、比較例1~15

表1、2記載のクレンジング化粧料を割製し、以下の評価方法により評価した。その結果を表1、2に示す。

[0020]

(評価方法)

1)透明性

実施例、比較例で調製したクレンジング化粧料の状態を目視にて観察し、以下の評価基準を基に評価した。

○:極めて良好な透明性を呈する

○:良好な透明性を呈する

○: かいる込が正と至する△: 少し濁る

×: 白澤を呈する

へ:日傷を王5

2) 平均粒子径

実施例、比較例で調製したクレンジング化粧料を、400ppmの濃度となるように水で 希釈し、レーザー回析式粒度分布測定装置 SALD-2000A (島津製作所製)で 測定した。尚、測定した平均粒子径を表1、及び表2に記載した。

3)使用感

健常女性パネラー 20名に業肌を水洗、産媒後、耐水性のある油性アンデーションを関 総に塗布、30分後に実施例、比較何で調製したクレンジグ化粧料1.0gを用いて、 約20移間のレンジング動性をおこなった後、水で洗い塩した、その癖の「マッサージ性 」、「メークとの馴染み易さ」、「水による湿ぎ易さ」、「洗い上がりのさっぱり感」及 び「メークさり効果」の各項目を100点満点として採点し、その平均点より以下の基準 に従い評価にか

(評価基準)

```
評 価 平 均 点 判定

良 好 : 75点以上 : ◎

やや良好 : 50点以上~75点未満 : ○

やや不良 : 25点以上~50点未満 : △

不 良 : 25点状 : ×
```

4) 安定性

実施例、比較例で調製した透明クレンジング化粧料を0℃、50℃の恒温槽に一ヵ月放置 後の状態を目視にて観察し、以下の評価基準を基に評価した。

(評価基準)

:状態変化なし

×:白濁、分離等の状態変化がある

[0021]

【表1】

3.0 15.0 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.00 1.	20 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	10.5	13.2	0.2 0.01	1 1 1 % 1 1 8 8 9 1	8.50 10.5	2 1 1 2 1 1 2	3 3 5	1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
10.8 1 14.8 1 14.8 1 1 10.8 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	8.5 1.4.5 1.4.5 1.4.5 1.4.5 1.4.5 1.5.0 1.5.	100 100	14.8 14.8 14.8	02 1 03 10 1 1 1	1 1 80 1 1 80 1	8.50 T 10.5	1 1 88 1 1 89 1 1 1 85	1 1 22 1 1 23 1 1 22 1	1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
15.0	1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	100. 100. 114.8 17.8 17.8	14.8	2.0	1 8 1 1 8 6 1	10.6	10.6	7.5 1 8.2	1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
10.8 11.4.	20 0.5	114.8	13.2	1 1 2 20 1 1 1	8 I I 8 8 I	8.50 — — — —	10.5	23 1 1 23 1 1 23 1	18.3
1 14.8 1 1.6.8 1 1 14.8 1 1 1 14.8 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	7.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1	114.8	14.8	1 1 1 1 10.9	1 1 80 0.0	10.5	10.5	1 89 1 85	25 T E E E E E E E E E E E E E E E E E E
1 2.0 10.8 14.8 1 14.8 1 14.8 1 1 1 1 1 1 1 1 1	14.8 14.8 14.8 15.0 15.0 15.0 15.0 15.0 15.0 15.0 15.0	77.5	13.2	10.9	1 2.0	10.5	10.6	1 2 1 1 2 1	18.3
2.0	7.5 14.8 17.8 5.0	10.5	15.2	601	3.0	10.5	10.5	7.5	13.3
2.0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	7.5	14.8	1 1 1	3.0	_	22	972	7.5
2.0	14.8 1.4.8 1.7.5 1.0.0 1	7.5	14.8	1 1	1		1 60	1.5	7.5
2.0	7.5 14.8 77.8 5.0	77.8	27 1 87	ı		Ī	100	5"2	1 1 2
14.8	14.8	1 1 8 2	1 1 87		ı	7.50			1.5
14.8	1 14.8	1 4.8	1 %	 	1	Ī	ı		7.5
14.8	14.8 77.8 5.0	14.8	14.8	1	4.5	ı	ı	ı	
82.3	5.0	17.8		14.8	14.3	14.8	14.8	14.8	15.9
	2.0		17.8	77.8	77.8	78.49	76.5	77.8	77.8
		200	0.5	0.5	5.0	2,00	0.3	0.8	5.0
0.7 0.7	0.7	7.0	7.0	0.7	2.0	10.0	2.0	0.7	0.7
14.1 11.3 14.0	10.8	12.4	13.9	12.6	12.4	12.4	12.4	10.5	14.5
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0.375 0.560 0.298	0.515	0.095	0.324	0.348	0.349	0.112	0.504	0.424	0.182
0 0 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0
0 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	@
0 0	0	0	0	0	@	0	0	0	0
0 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【0022】 【表2】

[0023]

実施例1〜12に示した、透明クレンシング化粧料は水で希釈した時に微細なエマルションを形成すると共に、良好な官能特性を示した。また外細の透明性、保温級から高温域の 南方における温度安定性について、良好な結果を示した。一方、比較例1〜15に示した ものについては、評価項目のいずれかの項目で不十分な評価結果であった。

【0024】 【発明の効果】 本発明の透明クレンジング化粧料は、ポリグリセリン脂肪酸エステルを用いた、外観が透 明でクレンジング効果及び低温域から高温域の両方において温度安定性が良好であり、特 に使用後水により容易に乳化、微細エマルションを形成することにより、水洗性が極めて 良好である官能特性に優れたオイル状の透明クレンジング化粧料を得ることができる。